

令和3年度 土木学会賞候補の募集

技術賞、吉田賞、田中賞、技術開発賞、
出版文化賞、国際貢献賞、国際活動奨励賞、
国際活動協力賞および技術功労賞

令和3年度土木学会賞（技術賞、吉田賞、田中賞、技術開発賞、出版文化賞、国際貢献賞、国際活動奨励賞、国際活動協力賞および技術功労賞）候補の募集をいたします。別記募集要項および表彰規程、応募に際しての留意事項をご確認のうえ、ご応募いただきますようお願いいたします。

なお土木学会賞のうちの功績賞については公募いたしません。また、本年度の環境賞、研究業績賞、論文賞、論文奨励賞の募集は9月30日で締切りました。

公益社団法人 土木学会

〒160-0004

東京都新宿区四谷1丁目（外濠公園内）

TEL 03-3355-3442

E-mail : office@jsce.or.jp

<https://www.jsce.or.jp>

種別項目	田 中 賞	技術開発賞
選考対象	<p>【業績部門】 橋梁に関する技術の進歩、発展や事業の形成・実施、調査、計画、設計、製作・施工、維持管理等における実践等において、顕著な業績を挙げたと認められる者を対象とする。受賞主体は個人とする。</p> <p>【論文部門】 土木学会刊行物に発表された論文、報告等の中で、計画、設計、製作・施工、維持管理、利活用、考案、歴史・文化、普及・啓発などに関連して、橋梁工学への貢献が大きいと認められるものを対象とする。受賞主体は個人またはその複数とする。</p> <p>【作品部門】 新設あるいは既設の橋梁およびそれに類する構造物で、計画、設計、製作・施工、維持管理、更新、復旧などの面において特色を有する優れた作品を対象とする。なお、構造物に適用された特殊な技術、革新的な技術も作品とみなす。また、規模の大小は問わない。</p>	<p>計画、設計、施工、または維持管理等において、創意工夫に富むと認められる技術（情報技術、マネジメント技術を含む）を開発、実用化し、土木技術の発展を通じて、社会に貢献したと認められる者。</p>
受賞主体	<p>【業績部門】 個人（本会会員資格の有無を問わない）。ただし、既受賞者（研究業績部門あるいは業績部門）は受賞主体となることはできない。</p> <p>【論文部門】 著者全員（本会会員資格の有無を問わない）。</p> <p>【作品部門】 団体（本会会員資格の有無を問わない）。</p>	<p>個人またはその複数（5名以内）（本会会員資格の有無を問わない）。</p>
選考の範囲	<p>【論文部門】 2020年1月1日から2021年12月31日までの間に土木学会刊行物に発表された論文、報告で、原則として1編とする。</p> <p>【作品部門】 2019年1月1日から2021年12月31日までの間に完成した作品を対象とする。</p> <p>完成の時期については、原則的には供用開始のときとする。なお、その他一連の工事の一部としての橋梁等の構造物では、そのものが完成したとみなされるときとする。ただし、軌道、舗装等は未施工でもよい。</p>	<p>技術開発の行われた時期は問わないが、概ね最近5か年以内に実績が認められ、その技術内容を技術雑誌等に公表したものとす。ただし、実績は、実際に供用される構造物に適用されている等、現時点で既に社会に貢献していると認められるもの（選考対象の技術を使用した施工が完了しているもの）とし、これ以外の試験施工等の技術検証は実績として認めない。</p>
応募の方法	<p>応募は推薦による。なお、以下の提出物は、HPの記載に従って、電子的に提出する。</p> <p>【業績部門】 推薦者は、正会員（個人、法人）および特別会員とし、自薦も認める。推薦者は別に定める様式による推薦書ならびに参考資料を提出する。</p> <p>【論文部門】 推薦者は、正会員（個人、法人）および特別会員とし、自薦も認める。推薦者は、別に定める様式による推薦書と、候補論文を提出しなければならない。</p> <p>【作品部門】 推薦者は、正会員（個人、法人）、特別会員および土木事業に関連する学・協会とし、自薦も認める。推薦者は別に定める推薦書を提出する。</p>	<p>応募は推薦による。</p> <p>推薦者は、正会員（個人、法人）、特別会員および土木事業に関連する学・協会とし、自薦も認める（推薦者はすべて個人名とし、法人会員、特別会員、海外分会、土木事業に関連する学・協会および海外協力協定学協会についてはそれぞれを代表する者あるいは土木学会会長の認める者とする）。</p> <p>推薦者は、別に定める応募調書を1部提出する。応募調書の送付にあたっては、当該電子ファイル、技術概要書（A3判一横長）および当該業績と選考対象者の技術関与を説明するのに必要な資料（学会論文集・技術雑誌・テクリス・コリンズ・会議資料等）3編程度をPDFファイルに変換し、必ずウィルスチェックを行ったうえで、技術開発賞選考委員会ホームページから電子的に提出する（上限は100M Byte）。</p> <p>応募調書には、推薦理由、開発された技術の実績または応用例、その他必要な事項を明記しなければならない。</p>
選 考	<p>田中賞選考委員会において行う。</p> <p>なお、必要のあるときは、さらに関係資料の提出を求められることがある。</p>	<p>技術開発賞選考委員会において行う。</p>
内容説明会開催の有無	<p>作品部門については、内容説明動画を別途提出しなければならない。</p> <p>動画の要件や提出期限については、推薦書類の締切後に事務局から通知する。</p>	<p>選考対象者に出席を求め説明を受ける（2022年2月24日（木）（予備日：2月25日（金））とする。発表日および発表時間の希望は受けない）。詳細については技術開発賞選考委員会から別途通知する。</p>
表 彰	<p>定時総会において行い、賞状および賞牌を贈る。</p>	<p>定時総会において行い、賞状、賞牌を贈る。ただし、受賞者が複数の場合は、賞状は全員に贈り、賞牌は代表者に贈る。</p>
締 切 期 日	<p>2022年1月20日（木）（17：00必着）</p>	<p>2022年1月20日（木）（17：00必着）</p>
提 出 先	<p>提出は下記HPの記載に従って、電子的に提出する。</p> <p>URL：https://committees.jsce.or.jp/tanaka_sho/ （問合せ・連絡先） 160-0004 東京都新宿区四谷1丁目（外濠公園内） 土木学会田中賞選考委員会 TEL：03-3355-3442</p>	<p>提出は下記HPの記載に従って、電子的に提出する。</p> <p>URL：https://committees.jsce.or.jp/kaihatsu_sho/ （問合せ・連絡先） 160-0004 東京都新宿区四谷1丁目（外濠公園内） 土木学会技術開発賞選考委員会 TEL：03-3355-3442</p>

種別項目	技術功労賞
選考対象	<p>長年にわたり人目につきにくい業務に従事するなど地道な努力の積み重ねを通じて土木工学の進歩または土木事業の発展に功労のあった者とする。</p> <p>技術功労賞の対象分野としては、次の6分野がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育・研究・啓発 2. 調査・計画 3. 設計・監理 4. 用地・補償 5. 施工・検査 6. 管理・運用・防災・保全 <p>※「技術功労賞」は、「功績賞」（土木事業の発達、土木工学の進歩、あるいは土木学会の発展に寄与し、学会の声価を高め、その興隆に著しい功績があると認められた者）とは性質を異にするという趣旨を十分に考慮の上、推薦すること。</p> <p>※「応募に際しての留意事項」に示す【共通】および【技術功労賞の候補例】を参考にすること。</p>
受賞主体	個人（本会会員資格の有無を問わない）。
選考の範囲	2021年12月末までの業績とする。
応募の方法	<p>応募は推薦とする。</p> <p>推薦者は正会員（個人、法人）、特別会員および土木事業に関連する学・協会とし、自薦も認める。</p> <p>推薦者（応募者）は別に定める推薦書を1部提出する（令和3年度推薦書を使用する）。</p> <p>推薦書は本賞の趣旨を十分に考慮の上、受賞者としてふさわしいか、わかりやすく具体的に記述すること。</p> <p>特別な資料等がある場合には、参考資料を添付してもよい。</p>
選考	技術功労賞選考委員会において行う。
内容説明会開催の有無	開催しない。
表彰	定時総会において行い、賞状、賞牌を贈る。
締切期日	2022年1月20日（木）（17：00必着）
提出先	<p>160-0004 東京都新宿区四谷1丁目（外濠公園内） 土木学会技術功労賞選考委員会 TEL：03-3355-3442</p>

応募に際しての留意事項

【共通】

- 同一の方が同一の候補に対して2以上の各賞に推薦または応募されることは認められません。また、別々の方が同一の候補に対して2以上の各賞に推薦または応募された場合は、推薦（応募）者相互間で調整していただきます。
- 推薦に際しては、予め受賞主体となる者の了解を得てください。
- 推薦はすべて個人名で推薦するものとします。法人会員、特別会員、海外分会、土木事業に関連する学・協会および海外協力協定学協会についてはそれぞれを代表する者あるいは土木学会長の認める者とします。
- 会員は定款第6条により、①正会員（個人会員と法人会員からなる）、②学生会員、および③特別会員（民間会社の支店、官庁の地方分局など）に分かれます。海外の協力協定学協会会員については、それを証明するものを添付してください。
- 各賞に関わる事前説明は固くお断りいたします。
- その他ご不明な点については土木学会事務局総務課（TEL 03-3355-3442）へお問合せください。

【技術功労賞の候補例】

- 技術功労賞の対象6分野における受賞候補の例を示しますので、応募の参考としてください。

(1) 教育・研究・啓発

- ①土木教育において長年実験実習等（OJT等職場での教育を含む）に携わった者。また、長年にわたって、教育方法の改善に役立つ、創意工夫を加えた者。
- ②実験、試験、研究、実験・試験機器の試作・改良に長年従事し、それらの促進に寄与する貴重な成果をあげることに貢献した者。
- ③土木工学を紹介する書物や映像の制作などに長年従事し、土木工学に対する一般大衆の理解を高めるなど、啓発活動に地道な努力を傾注した者。

(2) 調査・計画

- ①自然条件の観測、地形測量、図書、資料、統計データの収集、整理、分析、解析等に長年従事し、貴重な資料作成に貢献した者。
- ②長年の経験を生かし、プロジェクトの調査・計画に成果をあげた者。
- ③長年にわたって、環境問題を考慮したプロジェクトに貢献した者。

(3) 設計・監理

- ①各種土木構造物の設計あるいは監理業務に長年従事し、貢献をした者。
- ②長年の経験を生かし、土木構造物の設計に貢献のあった者。
- ③長年の経験を生かし、合理的な監理手法や検査方法の改良に貢献のあった者。

(4) 用地・補償

- ①事業遂行に向け、境界確定、用地取得、区画整理、漁業補償等の交渉に長年従事し、数多くの貢献を果たした者。
- ②用地取得、補償の実施に際し必要となる基準等に関する資料収集、調査、研究、整備に長年従事し、数多くの貢献のあった者。

(5) 施工・検査

- ①長年にわたって、事故防止のため、施工の安全高揚に精励し、多くの貢献を残した者。
- ②工事現場に長年従事し、機械化の推進や施工方法の改善、衛生的な事務所や宿舍の確保など労働環境の改善に貢献した者。
- ③長年にわたって、施工に関し、独自の検査方法を考案するなど品質の向上に多くの貢献があった者。

(6) 管理・運用・防災・保全

- ①長年にわたって、維持・管理業務に従事し、事故や災害を未然に防ぐために献身的に業務を遂行し、さらに業務の改善に地道な努力を行っている者（例えば、鉄道や道路、河川施設、港湾施設、上下水道、廃棄物処理場などの維持・管理業務）。
- ②各種の管理システムや運用システム、防災システム、保全システムについて、長年にわたり個々の技術やシステムの開発、改善に努め、省力化や省エネルギー化、効率化に貢献のあった者。
- ③土木構造物（敷地を含む）の安全管理や保全に長年従事し、貢献のあった者。